

## ■研究調査レビュー

### 物流から見た奄美経済

山本 一哉（鹿児島大学法文学部）

#### 1. はじめに

奄美群島は、食料品から日用雑貨品、建設・土木資材、重油・ガソリンまで、さまざまな物資を島外に依存している。一方で、輸送野菜や花きなど多くの農産物を島外に出荷している。

奄美群島の経済規模や経済（生産）構造を考えれば、多くの物資を島外に依存することはやむを得ない。しかし、その結果、島外への所得の流出や物価の高騰（実質所得の低下）を招き、本土との大きな所得格差につながっている。

本稿では、主に『港湾統計』の分析を通して奄美経済を物流の面から見てみたい<sup>1</sup>。ただ、『港湾統計』は重量ベースの統計であり、また中分類までしか品目分類がされていないので、これだけでは十分な分析は困難である。そこで本稿では、補完的な分析材料として、奄美のスーパーに対して実施した商品の仕入先に関するアンケート調査や現地での聞き取り調査の結果を利用することにする。

#### 2. 奄美群島の物資の輸送手段

奄美群島における主な物資の輸送手段は船

船による海上輸送であり、なかでも鹿児島ー沖繩間（鹿児島～名瀬～亀徳～和泊～与論～本部～那覇）を2社が交代で毎日運行するフェリーが中心的な役割を果たしている。また、神戸ー奄美間、東京ー奄美間をフェリーがそれぞれ週1～2便就航しており、鹿児島を經由せず直接大消費地に生産物を出荷することも可能である。上記フェリーの運航ルートから外れている喜界については、鹿児島ー知名間を週5便運行するフェリー2隻が物資の輸送手段となっている。また、重油・ガソリン等の一部物資については、専用の内航タンカーで随時メーカーから直送されている。

#### 3. 奄美群島の移出入バランス

表1は、奄美群島の海上輸出入貨物量の推移を示したものである。移入貨物量が85年以降ほぼ90万トン前後で安定しているのに対して、移出は98年以降、「鉱産品（砂利・砂等）」の移出増により大幅に増加し、2000年には約62万トンを記録したが、2002年には大幅に減少した。移出入バランスは常に大幅な移入超過であるが、85年、95年当時と比べると最近はかなり収支が改善している。た

表1 奄美群島の海上移出入貨物量の推移

（単位：トン）

	75年	85年	95年	98年	00年	02年
移出	244,511	266,868	252,244	515,915	616,356	457,574
移入	665,960	880,138	939,214	917,499	931,599	915,595
収支	△421,449	△613,270	△686,970	△401,584	△315,243	△458,021

資料) 鹿児島県大島支庁『奄美群島の概況（平成15年度）』及び県港湾課『港湾統計』

注1) 移出入ともに奄美群島各港（02年以外は和泊港を含む）の移出入の合計であり、群島内各港間の移出入も含む。

注2) △は移入超過

<sup>1</sup> 県港湾課から『港湾統計』を提供していただきました。お礼申し上げます。

だし、これは重量ベースでの収支改善を示しているに過ぎない。

#### 4. 奄美群島の主な移出入物資

表2は、島別に海上移出入貨物を品目別に集計したものである。まず移出を見ると、奄

美群島では島外出荷を目的とした輸送野菜、花き、肉用牛、さとうきび（分みつ糖）の栽培が盛んであることを反映して、奄美大島を除く地域で「農水産品（野菜・果樹、その他農産品<sup>2</sup>、畜産品）」と「軽工業品（砂糖、飲料）」が多くを占めている。特に、輸送野菜と

表2 奄美群島の海上移出入貨物の品目別数量（2002年）

##### ①移出

（単位：トン）

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
農水産品	4,544	2,320	20,495	33,147	3,642
林産品	965	0	394	7	14
鉱産品	83,470	15	78,858	5	12
金属機械工業品	65,225	288	5,116	4,872	484
化学工業品	30,022	246	353	73	86
軽工業品	31,988	3,953	37,399	5,660	4,944
雑工業品	752	31	122	296	327
特殊品	12,439	5,727	3,530	6,111	4,350
分類不能のもの	3,744	858	254	435	1
計	233,149	13,438	146,521	50,606	13,860
主な品目 （中分類）	完成自動車、セメント、砂利・砂、水	野菜・果実、畜産品、砂糖、製造食品、飲料	野菜・果実、畜産品、砂糖、飲料、砂利・砂	野菜・果実、その他農産物、畜産品、砂糖	野菜・果実、畜産品、製造食品、飲料

##### ②移入

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
農水産品	21,395	5,108	12,102	6,171	3,236
林産品	4,771	0	3,559	1,897	869
鉱産品	82,936	24,261	40,309	65,849	34,801
金属機械工業品	128,161	1,454	24,806	12,860	4,200
化学工業品	19,738	12,207	85,924	21,534	9,738
軽工業品	43,786	11,524	26,435	10,909	5,852
雑工業品	8,895	1,603	6,861	3,061	5,655
特殊品	62,228	9,722	23,594	15,865	7,198
分類不能のもの	29,319	3,112	9,220	2,781	89
計	401,229	68,991	232,810	140,927	71,638
主な品目 （中分類）	野菜・果実、製造食品、飲料、砂利・砂、金属製品、完成自動車、石油製品	砂利・砂、石材、石油製品、製造食品	製造食品、砂利・砂、金属製品、鋼材、セメント、窯業品、石油製品、肥料	野菜・果実、その他農産物、畜産品、飲料、製造食品、砂利・砂、鋼材、セメント、石油製品、肥料	野菜・果実、製造食品、その他日用品、砂利・砂、金属製品、重油、肥料

資料）鹿児島県港湾課『港湾統計』より集計。

注）「奄美大島」は名瀬港・古仁屋港、「徳之島」は亀徳港・平土野港の合計。「沖永良部島」は和泊港のみ。

<sup>2</sup> 花きを含む。

花きの栽培が盛んな沖永良部では、総移出の約65%を「農水産品」が占めている。奄美大島と徳之島では「鉱産品」の移出が多いが、この大部分が砂利・砂である。

次ぎに移入であるが、表2を見ると、地域によって多少バラツキがあるものの、「農水産品」、「鉱産品（砂利・砂）」、「化学工業品（重油・ガソリン、化学肥料）」、「軽工業品（製造食品、飲料）」が多く、奄美大島ではこれに加えて「金属機械工業品（鋼材、金属製品、セメント）」が多いことがわかる。特に注目されるのが、農業を基幹産業とする奄美群島で「農水産品」の移入が多いことである。表

3からわかるように、奄美群島では、さとうきび（分みつ糖）、輸送野菜、花き、肉用牛など島外出荷向け農畜産品の生産拡大とともに、島内消費の米、自給野菜、豚の生産が縮小した<sup>3</sup>。この結果、島外からの農畜産品の移入が増加し、奄美群島内の食料自給率は大幅に低下した<sup>4</sup>。農畜産品の島外依存の拡大は奄美の物価高（本土との価格差）の一因ともなっている。県民生活課の物価調査によると、奄美の生鮮食料品（野菜・食肉・牛乳・鶏卵など）は石油製品と並んで本土よりも価格が高い。

表3 奄美群島における主要農産物・畜産物の生産量の推移

（単位：トン、千本、千球、頭）

年度	耕作部門						畜産部門		
	米	野菜	花き		さとうきび	肉用牛 飼養頭数	豚 飼養頭数		
			輸送	自給				切り花	球根
1970	8,127	16,059	...	...	...	45,531	489,087	15,610	22,188
1975	2,269	19,943	3,741	16,203	...	80,134	548,843	14,473	14,964
1980	844	22,255	7,655	14,600	7,281	97,606	628,495	13,159	16,182
1985	426	27,221	14,567	12,654	24,531	95,746	702,428	15,622	12,693
1990	255	32,746	18,522	14,224	57,896	71,702	562,064	18,654	6,496
1995	164	30,186	19,904	10,282	86,865	39,487	456,347	24,415	4,653
2000	71	34,520	25,951	8,569	94,866	23,922	393,742	25,747	2,631
2001	60	31,777	26,031	5,746	101,771	22,857	445,750	26,580	2,347
2002	53	35,125	28,921	6,204	111,421	18,611	361,047	26,522	2,686

資料）鹿児島県大島支庁『奄美群島の概況』、『奄美農業の動向』、『奄美農林業の動向』（各年度版）

### 5. 奄美群島の物資の主な移出入先

表4は、奄美群島の移出入先別の海上貨物量を集計したものである。

まず移出を見ると、喜界、沖永良部、与論では鹿児島本土への移出が多くを占めている。特に沖永良部では総移出の約86%が鹿児島

本土への移出である。これに対して、徳之島では沖縄県への、奄美大島では鹿児島県・沖縄県以外の地域への移出が多い<sup>5</sup>。

各島の鹿児島本土への移出品目を確認すると、奄美大島を除いて野菜・花き・畜産品が大部分を占めている。特に、輸送野菜・花き

<sup>3</sup> 同じ奄美群島でも島によって農業生産構造が異なっている。この点は、北崎浩嗣「与論島と喜界島の農業の現状と課題」『奄美ニューズレター』No.7（2004年6月）を参照のこと。

<sup>4</sup> 皆村武一「島嶼社会の持続的発展のために」『奄美ニューズレター』No.9（2004年8月）を参照のこと。

<sup>5</sup> 奄美大島から「その他」地域への主な移出品目は、海上移出された水（約3万トン）及び石材（約5万トン）である。

の生産が盛んな沖永良部島と輸送野菜・肉用牛の生産が盛んな徳之島では、鹿児島本土への移出の約7割を農畜産品が占める。与論と喜界でも約3割が農畜産品である。与論及び沖永良部（JA与論、JA知名、JA和泊、沖永良部花き流通センター、和泊町役場）で行った輸送野菜・花き等の島外出荷についての聞き取り調査によると、ほぼすべての農産物が船舶でいったん鹿児島本土（鹿児島港）に運ばれ、そこから品目や出荷先に応じてトラック、鉄道（JRコンテナ）、航空機を使い分けて市場へ輸送されている<sup>6・7</sup>。先に見たように、神戸、東京と奄美間にはフェリーが就航しているが、農産物が鹿児島を経由せず直接市場に出荷されることはほとんどない。隣の沖縄県でも、鹿児島経由で出荷される輸

送野菜や花きが年々増加している。JAおきなわや沖縄県花卉園芸農業協同組合（太陽の花）では、輸送野菜や花きを集荷場でJRクールコンテナに積み込み、コンテナごと船舶で那覇港もしくは本部港から鹿児島港まで運び、鹿児島駅貨物ターミナルからJR鉄道で市場まで輸送するという、いわゆる「船舶・JR複合一貫輸送」を補完的な輸送手段として積極的に活用している<sup>8</sup>。

徳之島と奄美大島では沖縄県への移出が多く、特に徳之島では総移出の約5割を占める。ただ移出品目を確認すると、移出の99%が砂利・砂である。また奄美大島から沖縄向け移出の約8割がセメントである。というわけで、徳之島、奄美大島と沖縄県の経済的な関係が深いとは言い難い。

表4 奄美群島の移出入別海上貨物量（2002年）

## ①移出

（単位：トン）

	移 出 先								合計
	鹿児島本土	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島	沖縄県	その他	
鹿児島港	-	202,349	39,463	88,333	56,313	26,086	526,402	868,852	1,807,798
奄美大島	66,610	-	7,490	9,948	5,836	3,224	11,450	128,591	233,149
喜界島	9,723	1,452	-	0	0	0	0	2,263	13,438
徳之島	29,947	1,515	60	-	344	107	70,380	44,168	146,521
沖永良部島	43,283	606	0	855	-	304	703	4,855	50,606
与論島	8,385	179	0	85	220	-	687	4,304	13,860

## ②移入

	移 入 先								合計
	鹿児島本土	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島	沖縄県	その他	
鹿児島港	-	18,104	10,828	19,139	42,306	7,355	246,687	4,273,831	4,618,250
奄美大島	283,500	-	1,638	5,946	2,645	0	11,474	96,026	401,229
喜界島	34,285	3,370	-	0	0	0	3,407	27,929	68,991
徳之島	112,685	2,632	95	-	313	59	40,841	76,185	232,810
沖永良部島	61,051	2,722	7	1,213	-	103	6,170	69,661	140,927
与論島	26,111	1,833	0	120	274	-	16,599	26,701	71,638

資料) 表2に同じ。

注) 「鹿児島本土」は鹿児島港・谷山港・志布志港の合計。鹿児島港・名瀬港の移出入データには知名港も含む。「沖縄県」は那覇港・本部港・金武湾・中城湾等の合計。

- <sup>6</sup> 奄美群島の農産物出荷については、別稿にて沖縄県との比較を交えながら詳しく検討する予定である。
- <sup>7</sup> 黒糖焼酎メーカーに対して行った物流に関するアンケート調査結果によると、ほとんどのメーカーが農産物と同様に、まず焼酎を船で鹿児島まで運んで、そこから市場までトラック輸送している。
- <sup>8</sup> 主要な輸送手段は、花きやいんげん等が航空機で、その他の野菜は船舶（関西・関東への直行）である。沖縄の農産物出荷の現状については、山本一哉「沖縄・奄美群島の物流と自立化」『島嶼地帯の県境を越えた市町村合併に関する総合調査－奄美群島を事例にして』（2004年3月）を参照のこと。

最後に、奄美群島内での移出を見ると、わずかな量しかない。奄美大島から他の奄美群島への移出が一定量見られるが、喜界へは砂利・砂、徳之島・沖永良部へは完成自動車がそれぞれ全体の約6割を占めている。

次ぎに移入を見ると、いずれの地域でも鹿児島本土からの移入が多い。特に奄美大島は総移入の約7割（ただし、「完成自動車」が約3割を占める）が鹿児島本土からで、他の島でも約4～5割が鹿児島からの移入で占められている。鹿児島本土からの移入品は、県外メーカーから直送されてくる重油・ガソリン（山口県・沖縄県等）やセメント（大分県）等を除くあらゆる品目にわたる。特に移入が多いのが、食料品（米・野菜・果樹・畜産品・水産品・加工食品・飲料等）や建築・土木資材である。

徳之島と与論では沖縄県からの移入が多いが、その多くが重油・ガソリンである<sup>9</sup>。奄美群島の石油特約店は、主に山口県と沖縄県の

製油所から重油・ガソリンの供給を受けている<sup>10</sup>。沖縄県には2社の石油精製会社があり、重油・ガソリンは製油所から内航タンカーで奄美各島の油槽所に運ばれている。沖縄県からの総移入のうち、徳之島では約8割をガソリン等の石油製品が、与論では約3割を重油が占める<sup>11</sup>。また、喜界でも沖縄からの移入のすべてが、沖永良部でも同移入の約6割が重油・ガソリンである。ただ、沖縄石油精製（出光興産の完全子会社）が2004年3月で石油精製事業を停止したことから、今後、沖縄からの重油・ガソリンの移入は減少すると思われる。

『港湾統計』を見る限りでは、奄美群島における沖縄からの移入量は重油・ガソリンを除けばそれほど多くない。また私が奄美群島のスーパーに対して実施した商品仕入先に関するアンケート調査や与論、沖永良部、名瀬市で行った日用雑貨店、衣料品店、酒店、建築資材店等での聞き取り調査の結果も『港湾統

表5 奄美群島スーパーに対する商品仕入先に関する調査結果（複数回答）

	回答数	仕 入 先						
		鹿児島本土	名瀬市	島内	沖永良部	JA県経済連	沖縄県	その他
野菜	27	14	4	11	0	6	4	2
加工食品	27	16	10	14	0	6	4	1
鮮魚	22	13	7	13	0	6	1	1
精肉	25	15	11	4	0	7	3	3
日用雑貨品	27	15	6	4	2	6	3	5

注1) 加工食品は食パン・カップ麺、精肉は豚肉、日用雑貨品はティッシュペーパー・洗濯用洗剤

注2) 野菜については仲買業者の他に地元農家を、加工食品及び日用雑貨品については卸売業者の他にメーカーを含む

注3) 鮮魚の「島内」には仲買業者の他に地元漁協を含む

注4) 奄美大島の場合、「島内」は名瀬市を除く

注5) 日用雑貨品の「沖永良部」からの仕入2件は与論のスーパーによる

<sup>9</sup> 移入された重油の多くは各島にある九州電力の発電施設に供給されている。

<sup>10</sup> 奄美群島のガソリンなど石油製品は、本土と比べて価格が高い代表的な品目で、平均2～3割高い。この理由の1つに、県外製油所からの輸送コストがある。

<sup>11</sup> 与論の場合、砂利・砂の移入も多く、重油と合わせると、沖縄からの総移入の約9割を占める。

計』の分析結果を裏付けるものであった<sup>12</sup>。表5はアンケート調査結果を集計したものであるが、27店舗中、沖縄から仕入れを行っているのは与論、沖永良部、徳之島のわずか3～4店舗に過ぎず、しかも主要な仕入先は鹿児島本土で、沖縄はあくまで補完的な仕入先としての位置づけでしかなかった<sup>13</sup>。また聞き取り調査でも、沖縄産品については、ある与論の小売店主が沖縄までトラックで直接仕入れに出かけている事例やオリオンビール<sup>14</sup>やお茶などの飲料類が流通している事例ぐらしか確認することができなかった<sup>15</sup>。沖縄県自体、多くの物資を本土からの移入に依存していることを考えれば、この結果は当然といえば当然であろう。表4(①移出)を見ても、沖縄県は鹿児島本土(鹿児島港)からだけでも、約53万トンもの物資を移入している。

## 5. おわりに

本稿では、『港湾統計』を利用して奄美群島の物流を分析したが、重油・ガソリン、セメントや砂利・砂等の一部物資を除けば、奄美のほとんどの物資が鹿児島本土を拠点に移入されていることが確認できた。ただ、鹿児

島から奄美へ移出されている物資の多くが県外で生産されたものであり、また島外に出荷される農産物の多くが県外市場向けであることを考えると、鹿児島本土(港)は単なる「物流」上のポイント(物資の積み卸し港)に過ぎず、『港湾統計』から受ける印象ほど奄美と鹿児島本土の経済的關係は深くない、という見方もできるかもしれない<sup>16</sup>。両地域のより正確な経済連関を確認するためにはより詳細な分析が必要である。この点は今後の課題としたい。

<sup>12</sup> 本年7月、奄美群島の物流と物価高の要因を探ることを主な目的に、奄美群島に所在するスーパー54店舗に対して、商品(野菜・加工食品・鮮魚・豚肉・日用雑貨品)の仕入先と海上・陸上輸送コストの負担についてアンケート調査(一部、聞き取りによる)を実施し、27店舗の有効回答(回収率:50%)を得た。また、8月上旬、与論・沖永良部・名瀬市の店舗に対して、補足的な聞き取り調査も行った。

<sup>13</sup> 与論、沖永良部のスーパーで特に目についた沖縄産品は豚肉であった。

<sup>14</sup> 沖縄県では復帰特別措置(2007年5月期限切れ)による「酒税軽減措置」で本土より酒税が20%安い。ただし、この措置は沖縄県内での消費を前提にしており、沖縄県外のオリオンビール特約店がビールを仕入れる場合、卸値は軽減分の20%を上乗せした価格となる。また、県外酒店が沖縄の卸売業者等から沖縄産ビールを仕入れる場合は、仕入側が国税局に申告し20%分の酒税を支払うことになる。この件について、奄美の酒店で聞き取り調査を行ったところ、一部の酒店がこの「酒税軽減措置」を利用(悪用?)し、沖縄の間屋から酒税を支払わずに安くでビールを仕入れて、ディスカウント価格で販売している、とのことであった。真偽のところは不明だが、「一国二制度(?)」を利用した商取引としてある意味興味深い。

<sup>15</sup> 奄美特産品の1つである黒糖焼酎の原料糖の多くが沖縄産である。

<sup>16</sup> 奄美の小売店・卸売店・製造業の多くが鹿児島市の卸売店を通じて商品を仕入れており、その意味では鹿児島本土は「物流」だけでなく「商流(取引流)」上の重要な役割を果たしている。